

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）総合的な学習の時間編より

学習指導要領解説では目標について、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とし、「(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようする。(2) 実社会や実生活の中から問い合わせを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようとする。(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。」としています。内容の一つとして「現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」について「社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題のことである。そのいずれもが、持続可能な社会の実現に関わる課題であり、現代社会に生きる全ての人が、これらの課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。また、これらの課題については正解や答えが一つに定まっているものではなく、(中略) 総合的な学習の時間の探究課題として取り上げ、その解決を通して具体的な資質・能力を育成していくことには大きな意義がある。」と解説しています。



単元例

【単元名：「みんなにやさしい社会を考える】

次	項目	内容（キーワード）
1	社会にはどんな人がいるのだろう～身近な駅から考えてみよう～	<ul style="list-style-type: none">・自分以外にどのような人が利用しているか・駅にはどのような工夫があるか（バリアフリーとユニバーサルデザイン）
2	「みんなにやさしい社会」を考えよう	<ul style="list-style-type: none">・おじいさんやおばあさんと自分との違い・高齢者の疑似体験と介助者の体験を通して気付いたことの話し合い・自分にできることは何かを考える
3	「みんなにやさしい社会」について考えたことをまとめる	<ul style="list-style-type: none">・みんなにやさしい社会・これから自分が取り組んでみたいこと・壁新聞

発展

『2 「みんなにやさしい社会」を考えよう』の中で…

高齢者の疑似体験や介助者の体験を通し、自分とは異なる他者のことについて想像したり、考えたりする。「みんなにやさしい社会」とはどのような社会か、そのために自分が取り組みたいことを具体的に考えてみる。

学習指導案（例）

小学校 総合的な学習の時間 単元名「みんなにやさしい社会を考える」

「2-2 「みんなにやさしい社会」を考えよう（第2次の2・3時間目）

《本時のねらい》

- ・身近な社会の中で、自分以外にも様々な人々が生活していることを考えることができる。（知・技）
- ・高齢者や障がいのある人が生活する上で、必要なこと（もの）や気持ちを考えることができる。（思・判・表）
- ・「みんなにやさしい社会」になるために必要なことに気付き、自分にできることを見付けることができる。（学）

POINT

社会には様々な人がいるということへの気付きを大切にしましょう。疑似体験を通して、一人ひとりが生活しやすい社会になるために自分自身ができることを考えられると良いでしょう。

《活動の流れ》(45分間×2コマ連続)

時間	主な学習活動	指導上の留意事項	資料・準備
: (5分)	1. 前時の振り返り 2. 本時の内容を知る	<p>POINT</p> <p>前時では、具体的なイメージを持ちやすいよう場所を「駅」に限定して考えました。自分以外に駅を利用している人、駅にある工夫など前時の内容を振り返った上で本時の内容を進める良いでしょう。 ※取扱うテーマ（駅等）は、地域や学校の実情などにより工夫しましょう。</p>	
: (40分)	<p>3. おじいさんやおばあさんと自分たちとの違いについて考えたことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が見えづらくなる、耳が遠くなる、腰が曲がる等 <p>4. 体験してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人一組となり、耳チーム、目チーム、腰が曲がるチーム、ひじひざチームで体験をする。 ・一人は体験をし、もう一人は、介助者として付き添うことを体験する。 	<p>POINT</p> <p>体験から気付いたことについて話し合うことを予告し、体験への意識を高めると良いでしょう。</p> <p>・高齢者疑似体験セット（イヤーマフ、視覚障害ゴーグル、前かがみ姿勢体験ベルト、ひじひざセンターと重り）の安全な使用方法を確認する。</p>	
: (25分)	<p>5. 体験の振り返り（個人ワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように感じたか（高齢者体験者、介助者として） ・駅を利用したり、町で暮らしたりするときに、あると便利なもの、ないと困るもの ・周りの人はどうしたら良いか、自分には何ができるか <p>6. 体験した二人一組で、ワークの内容について話し合い、自分のワークシートにまとめる。</p>	<p>・振返りは個人ワークで行い、体験者同士で共有できるようにする。</p> <p>POINT</p> <p>体験した気付きと共に、もし駅や町だったらどうかなど、場所を設定することでイメージを持ちやすくしたり、話合いを通して考えを広げたりできるようにしましょう。</p>	<p>・ワークシート(I)の続き</p>
: (20分)	<p>7.まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで出た内容を共有する。 ・まとめを聞く。 ・考えたことや気付きをまとめる。 	<p>POINT</p> <p>学習活動5では、児童から様々な意見が出されると想定されます。それらの意見を肯定的に受け止めましょう。学習活動7の「まとめ」では、高齢者等に特化するのではなく、「様々な人がいること」「様々な人と一緒に生活していること」への気付きや理解を育みます。本時のように一人ひとりが考え続けていくことが大切です。</p>	

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・社会には、自分以外にも様々な人々が生活していることを理解している。	・高齢者や障がいのある人が社会で生活するときに必要なことや気持ちについて、考えたことを表現している。	・体験したことや自他の考えをもとに、自分にできることを見付けようとしている。